

令和7年度第1回予防接種対策委員会 会議録

1 開催日時

令和7年11月12日（水）

開会 午後2時

閉会 午後3時

2 開催場所

尾張旭市保健福祉センター 4階 シアタールーム

3 出席した委員（5名）

松尾功、佐伯公、新川成哲、森下雅史、大江英之

4 欠席した委員（2名）

渡邊秀人、加藤誠章

5 傍聴者数

0名

6 出席した事務局職員

健康課長 太田篤雄、健康課長補佐兼感染症対策係長 北村亜紀子、

健康課感染症対策係 主査 澤田仁美、健康課感染症対策係 主査 廣岡真由美

7 議題等

- (1) 令和6年度及び令和7年度尾張旭市予防接種実施状況について
- (2) 予防接種間違い事例について
- (3) 令和8年度尾張旭市予防接種実施計画（案）について
- (4) その他

8 会議の要旨

1 開会

事務局	健康課長より開会宣言
-----	------------

2 議題

委員長	挨拶 今年はインフルエンザの流行が早く、診療及び予防接種により御多忙中と存じ上げる。 高齢者肺炎球菌の定期接種で使用するワクチンが23価莢膜ポリサッカライドワクチンから、20価結合型ワクチンへ変わる可能性があるため、動向を注視していきたい。今年も皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ願いたい。
-----	--

- (1) 令和6年度及び令和7年度尾張旭市予防接種実施状況について

資料に基づき説明。

委員 A	MRワクチンの接種率が100%近い数字にならない。また、乳幼児健康診査をしていると、予防接種の未接種者が少数見受けられる。どのように追跡をしているのか。
------	--

事務局	各健康診査での保健指導や就学時健康診断で接種履歴を確認し未接種者へ個別通知や電話で勧奨をしている。予防接種の必要性を改めて伝え、記録を残している。
委員長	生ワクチンに抵抗がある方が一定数いるが、アプローチが難しい。
委員 A	BCG は、接種事故やトラブルなどの報告はないか。
事務局	医療機関からの接種事故などの報告はない。
委員 A	風しん等予防接種費用の助成の対象者について伺う。予防接種履歴のある人は対象者であるか。
事務局	予防接種履歴があっても対象者となる。ただし、市の助成を受けて接種した方は対象外。
委員 B	風しんについては、定期接種年代に限らず対策が必要で、風しん第 5 期のように、その対象者の孫の代での先天性風しん症候群を予防する必要があるが、対策はいかがか。 おたふくかぜの予防接種助成があると良い。
事務局	市民からの問い合わせや風しん第 5 期に関する相談及び対応時には、ご自身だけでなく、その子どもや孫の代まで続く健康と関連づけて説明し勧奨を行った。
委員 B	風しん等予防接種の助成を拡大したことは、非常にありがたい。産科医にも周知できているか。
事務局	医師会を通して諸先生方に周知し、指定医療機関でのポスター掲示にて市民へも周知している。
委員 A	おたふくかぜの助成について、以前に要望書を提出しているが、どのような状況か。
事務局	優先順位が高い事案であると認識し、毎年検討している。市の財政状況が厳しく市独自での助成が難しい。また、接種率を把握したところ、約 8 割自費接種をしている状況。
委員 B	子どもの病気だからと軽視をしていないか。回復不可能な難聴はおたふくかぜが原因であるため、意識の変革をし、接種率 95 %を目指したい。
委員 A	尾張旭市の人口の増加と活性化につながるため、ぜひ検討してほしい。
事務局	今後も検討していく。

(2) 予防接種間違い事例について

資料に基づき説明。委員から意見なし。

(3) 令和 8 年度尾張旭市予防接種事業実施計画（案）について

資料に基づき説明。

委員長	MR ワクチンのミールビックⅡが新発売。有効期限が 2 年間であり、今のワクチンより 1 年間長いため、有効期限切れの接種間違い事例が減ると思われる。
-----	---

(4) その他について

事務局	今後の予防接種の動向として、厚生労働省の予防接種基本方針部会やワクチン評価に関する小委員会から 3 点情報提供。
-----	--

	<p>1点目は高齢者肺炎球菌ワクチン定期接種に使用するワクチンについて、20価結合型ワクチンに切り替え、対象者や経過措置の年齢を検討。</p> <p>2点目は、高用量インフルエンザワクチンを定期接種に使用するワクチンとして追加し、対象者などを検討。</p> <p>3点目は、乳幼児のRSウイルス感染症予防に対するワクチンの定期接種化を検討。いずれも、開始時期は示されてはいないが、定期化への動きが高くなっているので、今後の動向は、医師会を通して、周知していく。</p>
事務局	高齢者肺炎球菌感染症について、定期接種使用のワクチンが切り替わるが、現時点での周知勧奨をどうしたら良いか悩ましい。市民から相談された場合、先生方は、どのように対応するか。
委員 A	現状の定期接種として23価莢膜ポリサッカライドを接種して、1~2年経って20価結合型を接種して完了と伝えている。
委員 B	自費で接種するなら、21価結合型（キャップバックス）が一番良いと考える。定期接種については、厚生労働省からの通達が来るまでは、現行の23価莢膜ポリサッカライドを勧めて、変更の可能性があることを伝える。不確定な情報から接種を控え、新制度を待っている間に罹患しては意味がない。
事務局	今年度のインフルエンザの接種者数の見通しはどうか。
委員 A	昨年より接種希望者は多い。
委員 C	昨年より接種者は多いが、コロナ禍前の接種者より少ない。コロナ禍前は1月頃まで接種していたが、今年は流行が早く12月頃で減少しそうな見通し。
委員長	ワクチン製造に失敗すると、供給不足になるが、今はそのような状況でないため、供給不足が生じることはない。
事務局	新型コロナワクチンは5種類あるが、被接種者へどのように接種を勧めているか。
委員 A	被接種者へワクチンメーカーの希望をとることはない。また、被接種者がメーカーを選択することもほとんどない。
事務局	今年度から自己負担額が2,500円から5,000円へ上がった。接種控えの傾向はあるか。
委員 A	自己負担額が上がると、接種控えの傾向はある。
事務局	帯状疱疹の組換えワクチンを受けて、副反応が強く出ているケースはあるか。
委員長	副反応は強いが、効果があるため接種を勧めている。1回目に副反応が出た場合でも、2回目も接種している。副反応は倦怠感や発熱のほか、全身症状もある。50代の若い方は副反応が強いが、高齢の方は軽度な傾向。また、帯状疱疹の罹患率は増加しており、子どもでもかかる病気。
委員 A	生ワクチンについて、組換えワクチンに比べ効果が弱いと聞いた。適切に2回接種をすることで効果があがると思われる。

事務局	組換えワクチンを2回接種後、次の接種の10年以上経過した後の見通しをどのように伝えているか。
委員 A	被接種者へは、情報が明確になった後、その時に考えましょうと伝えている。
事務局	ワクチン接種を受けない人への対応はどのように。
委員 A	まずは、共感し、寄り添い、否定はしない。病気についての正しい情報（怖さ・後遺症）を説明することも大切。
委員長	子どもに予防接種を打たせないと虐待として扱われる国もある。
事務局	HPVワクチンの副反応は、実際あるのか。
委員 C	接種後、（迷走神経反射と思われる原因で）倒れた方などのケースはあるが、事前対処可能なレベルと思われる。
委員 A	痛みに不安がある場合は、緊張のない姿勢（仰臥位など）で行っている。
委員長	新型コロナワクチンをはじめ、筋肉内注射のワクチンも増え、適切な接種方法で実施しており、接種方法による神経障害はない。
委員 A	目立った副反応はない。副反応は、HPVワクチン関連の多様な症状であり、ワクチン接種との因果関係があると証明されていないため、ワクチン自体の問題ではない。
事務局	今年度の次回の会議は、予定していないが、今後、予防接種に起因する健康被害救済の申請が出た場合など必要に応じて開催する。ご教示していただいたことを参考に、今後も情報収集していく。

3 閉会

委員長	委員長より閉会宣言
-----	-----------